

『しくみ』を考えた保健室

京都市南区にある久世中学校は、1973年に「京都府乙訓中学校事務組合立第三乙訓中学校」として開校しました。その後、1982年4月に京都市に移管され、「京都市立久世中学校」と改称されました。現在の生徒数は約460名です。「自ら学び、自他を認め、未来を創造する生徒の育成」という学校教育目標のもと、地域とのつながりを大切にしている学校です。



久世中学校の保健室では「保健室の『しくみ』をどう変えれば、生徒の行動や気持ちが変化するか」を考えて保健室経営をしています。採用1年目の校内研修でお世話になった養護教諭研修指導員の先生のアドバイスをもとに、試行錯誤して作り上げてきた、たくさんの『しくみ』。その『しくみ』の一部をご紹介します。

環境整備の『しくみ』



以前は保健室内を来室者が自由に動き回るような様子がありましたが、生徒の安全面にも配慮しながら、スペース分けを行うことにより、誰にとっても安心できる心地よい空間になりました。また養護教諭にとっても、動線の負担が少なくなり、空間づくりを見直すよい機会にもなりました。今後、スペース分けのための表示を、ユーモアを加えたものに変更したいと思っており、『ここより奥へ入ってはいけません』

という表示から、楽しく効果のある応用行動分析を用いた表示にしていきたいと考えているところです。

入口には管理用務員さん手作りのピカピカに輝いているすのこがあります。すのこを置いてから、来室生徒が上靴をきれいにそろえるようになりました。



他の教職員とのコミュニケーションもたくさんとおられ、チームとなって保健室経営をされているなど感じました。



養護教諭不在時に他の教職員がスムーズに救急対応できるよう、救急用品等の管理場所がひと目でわかるようにラベリングしており、生徒の命を守ることに繋がっています。救急用品は年度当初の職員会議や HANA モデル研修時に写真つきで教職員に周知し、保健室入口にも掲示しています。



保健調査票や学校生活管理指導表も配慮が必要な生徒は個別にクリアファイルに入れ整えておくことで、緊急時や病院受診時に迅速に対応できるようになっています。



健康観察簿についての『しくみ』

表紙のデザイン、イラストの活用、一言メッセージをいれる等の工夫をして、健康観察簿を作成しています。毎日、健康観察簿に保健室来室状況を記入し、健康観察簿を通して担任とのコミュニケーションや情報共有を行っています。来室時間や様子、けがの状況等を知らせる事により、担任の知らない時間帯の生徒の様子を把握することができ、担任から生徒へより細やかな声掛けをする機会となっています。健康観察簿は欠席者の把握だけでなく、生徒の心身の不調や遅刻、不登校、いじめ、家庭環境の変化等の早期発見に繋がる重要な記録です。来室状況と照らし合わせ、担任の先生との連携も図り、子どもたちの安心・信頼につながるように有効活用している『しくみ』です。



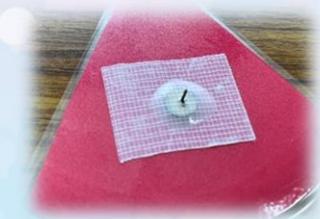
健康診断の『しくみ』



生徒の健康診断に対する不安や恐怖心を取り除き、静かに落ち着いて受けることができるように掲示物を準備しています。医師がスムーズに健康診断を実施するために器具の向きや間隔を工夫しています。また、以前は手洗い鉢やバケツに使用後の器具を直接入れていましたが、1枚ビニール袋を被せるようにしました。ビニール袋ごと交換や消毒ができるため、健康診断がスムーズに行え、感染防止にも片付けの負担軽減にもつながりました。

掲示物の『しくみ』

掲示物には、生徒が自分自身の健康に興味をもつことができるよう、クイズやおみくじ、鏡を設置したり、ゲーム形式にしたり、生徒が楽しんで学ぶことができる様々な仕掛けをしています。掲示する際は安全面に配慮し、画鋲の貼り方を工夫しています。



飾りや掲示物は、保健室に頻回来室する生徒や、教室へ入りづらい生徒と一緒に作ることもあり、作成する時間は生徒と会話ができる大切な時間となっています。

掲示物や保健だよりの内容を考える際には、教職員に意見を聞き、生徒の実態に合った内容になるようにしています。

教職員向けの保健だよりも発行しています。保健だよりの内容については教職員からの意見が届くこともあり、連携して保健教育を進めています。

8月は、長期休業明けに教室へ入りづらい生徒、不登校傾向の生徒、心身の不調を訴えて来室する生徒が多いことから、困った時の相談機関等について掲示しています。スクールカウンセラーの顔写真つきの紹介文を掲示することで、カウンセリングを利用したことの無い生徒も「この先生見たことあったけどカウンセラーの先生なんや！」と初めて認識する姿や、学校でのカウンセリングの機会を生徒へ発信することに繋がりました。さらに、スクールカウンセラーから外部機関の情報提供もあり、子どもたちへの支援の選択肢が広がり、心の健康相談の場にもなっています。



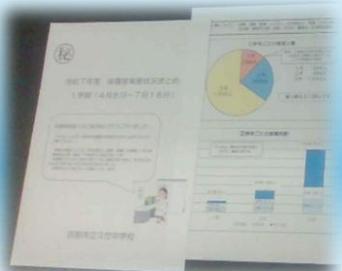


その他の『しくみ』

保健室には相談ポストを設置しています。



来室記録は学期ごとに集計して電子メールで発信しています。



職員室の出入口には熱中症ボードを設置しています。



養護教諭がコーディネーターとして多くの教職員と連携し、生徒や教職員にとってより良い学校づくりを目指して、さまざまなしくみを整え、広くアンテナを張っている保健室でした。